

豊田通商グループのCSR活動

豊田通商グループは、CSRを特別な取り組みとして捉えずに、企業活動のすべてのあり方を律する『経営そのもの』であると考えています。『人・社会・地球との共存共栄をはかり、豊かな社会づくりに貢献する価値創造企業を目指す』ことを企業理念として掲げ、これを実現していくための行動指針を定め、CSR活動を推進しています。

豊田通商グループのCSR活動をご紹介します。

タイの運転教習所

タイでは、経済の成長とともに物流量が増加し、それにともない物資の輸送にあたるプロドライバーの需要も拡大しています。そこで、当社の関係会社で同国最大規模のトラック輸送会社であるTTK Asia Transport (Thailand) Co., Ltd.は、安全運転教育センター（通称：TPRO）を開設しました。TPROは、タイ国交通局の陸上運送用車両運転教習課程の訓練コースに準拠した設計で、高速走行が可能なコースやエコドライブコースなどを設け、多様な教習が可能な施設となっています。

今後は、同社および協力会社のドライバーの安全運転技能・安全意識を高めるのはもちろんのこと、将来的には他企業や地域のドライバーを受け入れていく計画です。その上で、自動車・トラック・バス業界と連携した大型車教習や、運搬免許発行機能を有する教習所としての国家認定の取得、社外ドライバーへの各研修プログラムの提供など機能を拡大し、アジア新興国における交通安全施設の手本となることを目標とします。



教習所全体図



教習所施設（バンク走行）



教習所施設（S字走行）

東北復興支援 農商工連携プロジェクト

当社の関係会社である豊通食料株式会社が出資する農業生産法人株式会社ベジ・ドリーム栗原は、トヨタ自動車東日本株式会社（以下、トヨタ自動車東日本）、トヨタ自動車株式会社、宮城県および大衡村と協力し、宮城県黒川郡大衡村に農商工連携プロジェクトとしてパプリカ生産農場を新設し、2013年4月より実証実験を公開しています。

トヨタ自動車東日本の隣接地に建設した今回の農場では、自動車工場内の自家発電機の廃熱を利用することで、生産コストの削減と環境負荷低減を目指しています。

この新たな農商工連携を通じ、現在、国内市場の90%超が輸入品であるパプリカ市場に、消費者ニーズの高い「安全・安心」で「新鮮でおいしい」国産野菜を安定供給していくことで、農産物の自給率向上にも寄与していきます。

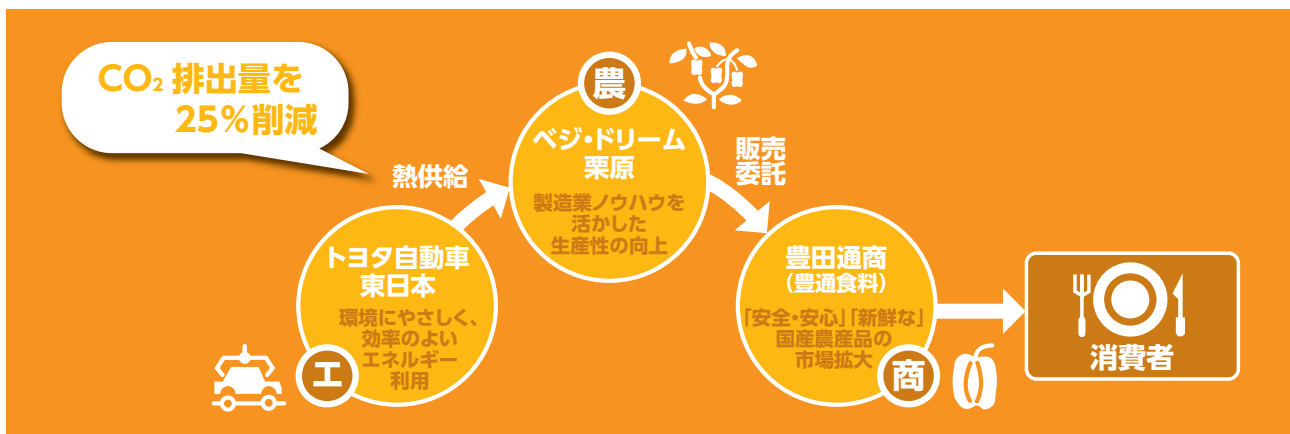
本プロジェクトはトヨタ関係各社で取り組む東北復興促進活動の一環でもあり、当社は今後とも関係各位のご協力を賜りつつ、宮城県の農業活性化、震災復興の一助となるべく努めていきます。



パプリカ生産農場



収穫したパプリカ



農商工連携による新しい農業ビジネスモデル